

発見！白井の仕事人 71

地域密着で安全を守る

青野工務店

今回は商工会の「暮らしなんでもお助け隊」に加盟して富士地区に事務所を設ける「㈱青野工務店」を紹介します。



青野浩三社長

社長の青野浩三さんに話を聞きました。

青野工務店の創業は、もともと船橋市で大工をしていた青野さんが昭和57年10月に地元である現在の場所で工務店を開業して今に至ります。創業当初は建築を一から任せられることは少なく、大工だった経験を生かし、住宅関連のいろいろなものの修理・修繕を地道に行っていくことで、顧客の信頼をつかんでいったといえます。それは現在も続いていて壁、屋根、ドアや水回りについて修理の依頼があれば、その都度快く対応しています。

主に住宅の建築・修繕などを行っています。小学校や学童などの公共施設の改修・耐震補強などもしています。過去には白井町役場の整備も行いました。市内の建物の安全をずっと支えています。最近は自然災害も多く、昨年の秋の台風では、市内のマンションの自転車置き場のトタン屋根が飛んでしまい、そ

の修理も行いました。青野さんは、「東日本大震災の時は、屋根から瓦が落ち、修繕依頼が多かったが、まずは雨漏りなどの応急処置から対応していった。いつ起こるか分からない災害への早急な対処は、その地域に密着した工務店の役目であり、緊急時に正しい対応をどのようにするかは常に念頭に入れている」と語ります。

また、白井市とは「災害復旧に関する協定」の「緊急道路安全協力体制」の協定書を結び、道路などの除雪、倒木の撤去や土砂処理の緊急時への対応に協力してもらっています。

「最近の人は一戸建てを建てないといわれますが、白井の若い人はそうではなく以前よりむしろ増えている印象」と話す青野さんは、その上で「一戸建ては大きな買い物。その後の修繕など建てた業者とは長い付き合いになっていく。地元の業者で建てた方が、災害への対応なども考えるといいのでは」と語ってくれました。

最後に「安くはもちろんです。が、いい仕事をしてよいものを提供すること」が仕事に対する信念と語る青野さんは、「トランプルがあったときもすぐに対応します。親子2代に渡って信用してくれているお客さんもいる。これからも小さいことから、こつこつとがんばります」と意気込みを話してくれました。

産業振興課商工振興班 内

線 3241